

動労千葉35年の軌跡



動労千葉の闘いの歴史のなかで、最も激しい攻防戦となった闘いは、国鉄分割・民営化反対闘争であった。全ての労働者の未来と労働運動の存亡をかけた闘いとして1985年11月第一波スト、1986年2月第二波ストを中心とした組織をあげた闘いに立ちあがった。



1979年3月30日、動労本部から分離・独立。国鉄千葉動力車労働組合結成。動労本部は連日数百人を動員し、4・17津田沼支部襲撃、各職場への暴力オルグを行ったが、これを断固粉碎し、各支部も結成が勝ち取られた。当時総評などの「理は千葉にあるが、本部の圧力で2百～3百人残ればいいほうだ」という大方の予想に反して、関川委員長の下に1400名中1300名を超える組合員を結集する新組合として、その第一歩を力強く踏み出した。



三里塚ージェット闘争 1979年～81年

81年3月ジェット燃料貨車輸送の期限切れの81年3月1日。動労千葉は2日から燃料列車の指名ストに突入。5日全線で特急・急行を対象にした指名スト、6日、総武快速、総武緩行線をはじめ、千葉ー東京地域の電車をブツ止める全乗務員の全面ストが打ち抜かれた。



2005～06年 05年尼崎事故。安全闘争を展開し、大きな反響を得た。



故中野洋前委員長追悼集会
2010年4月10日



2010年6月13日
国鉄闘争全国運動
の初めての集会

1047名解雇撤回！ 国鉄闘争全国運動

高齢者の雇用と安全を破壊する外注化粉碎！

10・1ストライキへ！



外注化攻撃との闘い

第2の分割・民営化攻撃である外注化との闘いが2009年頃から本格化し、検修・構内業務外注化をめぐる激しい攻防が続いた。強制出向攻撃と闘い、外注先の職場から新たな仲間の結集をかちとっている。

1047名解雇撤回闘争は、現在最高裁での闘いとなっている。「4・9政治決着」に屈せず、2010年に国鉄闘争全国運動をたちあげ、12年東京地裁、13年同高裁判決で不当労働行為を初めて認定させた。



2012年10月1日検修・構内業務
外注化強行に対してストライキ